

平成28年1月20日

# 旧阿久根高校跡地活用検討に 関する調査特別委員会

阿久根市議会



- 1 会 議 名 旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査特別委員会
- 2 日 時 平成28年1月20日(水) 13時11分開会  
14時46分閉会
- 3 場 所 第2委員会室
- 4 出席委員 山田勝委員長、濱崎國治副委員長、白石純一委員、  
渡辺久治委員、西田数市委員、仮屋園一徳委員、  
竹原恵美委員、牟田学委員
- 5 事務局職員 議事係長 東 岳也
- 6 参考人 遠矢 弘毅 君
- 7 会議に付した事件  
・旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査
- 8 議事の経過概要 別紙のとおり

## 審査の経過概要

### 山田勝委員長

ただいまから旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査特別委員会を開会いたします。本日は、先の委員会で決定しましたとおり、旧阿久根高校跡地活用について、株式会社ユナイトヴィジョンズ代表取締役 遠矢弘毅氏から参考人として御意見を伺いたいと思います。はじめに参考人の意見をお聞きしてから、質疑を行いますのでよろしくお願い致します。それでは、参考人よろしくお願い致します。

### 遠矢参考人

（プロジェクターを使用し説明）

遠矢と申します。よろしくお願い致します。

それでは、さっそくちゃんと調査ができているわけではないんですけど、私が今やってきていることとかも含め、自己紹介も含めて提案させていただきたいと思います。

私は赤瀬川、特養老人ホームの下の所で生まれて高校まで阿久根にいました。北九州に移って30年です。株式会社北九州家守舎というですね、使われていない不動産を新しい形で再生させて、新しい産業を生んでいきたいと思いますというそんな会社の経営をしています。元々は企業家支援カフェと呼んでますけど、会社を興したばかりの人とか、会社を今からつくりたいという人たちを応援するための飲食店の経営を6年ぐらい前から始めています。これは飲食店とフリースペース、会議ができたり、講演会をやったり、ま、ライブみたいなこともやるんですけど、そういうのを併設したものを北九州でも初めてつくったのが私です。その前の仕事としては、北九州市の外郭団体の財団法人北九州産業学術推進機構というところがあって、ここにIT系のベンチャー企業を集積させたエリアがあるんですけど、そのベンチャー企業の社長さんたちの経営指導をするというのを仕事にしておりました。今は北九州リノベーションで全国から注目されているんですけど、そのまちづくり推進協議会の副会長であったりとか、NPOさんとか、株式会社じゃないような企業とかにお金を出すようなファンドをつくらせてまして、一般社団法人ソシオファンド北九州というんですけど、その理事とかもやっております。

さっそくですが、阿久根高校は私の母親もあその出身なんですけど、すぐその上にずっと住んでましたし、ラジオ体操もそこでやってましたので、なんか鶴翔高校1校になってなんか寂しいなという思いがずっとしておりました。ずっと使われ方というのが決まっていないうことを伺ったので、何がいいのかなと思いながら、一応私なりに考えてみたのは、やっぱり学校ですので、そこはその人というか、若い人とかが集まって来て何か生まれる場所、人づくりをしてきた場所なので、そういう機能は残したほうがいいんじゃないかなというのが元々の考えです。阿久根を変えていくにはなんか町が変わっていくシンボルみたいなものが、あの高台にあるので、これをうまく使ってやったらどうかなと思っています。今、私がやっていることというのは、使われていないものを新しい使い方にいきたいと思いますということなので、これまでやってきたのは、書いてますけど家で何かを手作り作家という人たちを集めたファッションモールみたいなものをつくったり、シェアオフィスというのは、若い人たちは町中に事務所を持つには高い家賃を払えないから、じゃ安い家賃の小さな部屋をいっぱい区切ったものをつくりましょうとか、シェアハウスとか簡易宿所と書いてますけど、これは200坪くらいある10年くらい使われてなかったビルのフロアを安いホテルですね、ゲストハウスと最近呼んでますけど、宿泊ができて、その地域の産品を、材料を使ったレストランを一緒につくるという感じで今70ベッドくらいのホテルと50席のレストランの経営

というのを去年から始めています。そういうのをどういうふうにやってきたかという、実は補助金に頼らずに、自分たちでお金を集めてきて、全部やる。ここに書いてありますように商業施設とかシェアハウスとか、商店街の後援化、これは火事で焼けた跡地をビル建てるお金がオーナーはないと言われたので、地面を商店街が借りて、コンテナを置いて、レストランに変えたりとかですね、そんなことをやってきました。ここに公民連携事業と書いてますけど、御存知の方もいらっしゃるかと思うんですが、岩手県紫波町という人口3万人くらいの町があります。盛岡までJRで駅5つぐらいかな、すごい何も産業ないような町だったんですけど、ここを公有地、元々はその企業誘致などをしようと思って取得していた土地が何も使われずに残ってました。じゃあそこに商業施設であったり、市庁舎だったりを移して行って、何か人が集まる仕組みができないかなあということを民間が主導で町と協力して開発をしています。ここは岩手県のサッカー協会が、じゃあサッカー場として使おうといったようなものとか、あとバレーボールの専用の体育館をつくろうとか、物産館があり、図書館があり、音楽ができるようなホールがあり、そんなようなものをここはつくってるんですけど、なぜこれを出したかと言うと、実はここは体育館をつくる時にバレーボールしかしない体育館をつくっているんです。それは、全国でもほとんど例がないことになっていまして、結局日本代表の合宿があったり、JTさんのような実業団チームが来るかと思えば、全国高校バレーとかの優勝をするような学校の合宿があったりと、なので宿泊施設と体育館が一緒になっていて、宿泊施設自体もすごい稼働率で運営できているし、体育館も日本にそこだけということで、全国から人が集まってくるという事例があります。で、こういうことを踏まえて考えると、サッカー場をもう少し整備するというのは、すごくいいんじゃないかと思っています。私、同級生に富田というやつがいたんですけど、サンフレッチェとかに行った阿久根中学から鹿児島実業に行ったやつですね。彼と僕はすごく懇意にしていたんですけど、[西田数市委員「健二」と発言あり]はい、健二、健二です。健二と同級生というか、いつも一緒に遊んでたんですけど、聞いてみるとこの町はなんかその少年サッカーですかね、すごい育成に力を入れていて、ちゃんと伸びる子たちを育てるというチームがあるというふうに伺ったので、今回はそれが一番尖れるというか、特徴を出せるのかなと思ってサッカー場のようなものもいいんじゃないかと思って、今回はここに書いてます。でも、私としては、人が集まって来て、泊まれて、しかも地域の人たちも集まれるような、なんか魚売ってるとか、そういうような市場みたいなものも複合したものが、あそこにはできるんじゃないかなと思ってて、こういうふうにとまとめてはいますけど、何かで尖る、サッカーがいいのかわからないですけど、今はサッカーじゃないかと思ってますが、そんなところと宿泊施設を一緒にさせつつ、鶴翔高校のあの僕も家に缶詰とかよくありますけど、ああいうものの物産を売るとか、若い人たち及びこの町で暮らしている人たちもあそこに行って、働く、働きながら物を売る、でも全国から合宿に来ている、泊まれる、で、宿泊ができるということは観光の拠点としても良いわけですから、僕は新幹線が止まらなかったのはすごくいいことだと思っていて、昔の町が残ったままになっている。海もあるし、ちょっと行けば山もある、そういうところの核になるような、阿久根の情報を発信しますよ、でも、キーワードとしてサッカーですと言いつつ、何か物産のようなものをここでも売るし、その売ってる人たちの仕事場としてもやっていけたらどうかなと、なんかそんなふうに思っています。人づくりと書いてますけど、その場所が観光客のような人たちの集まれる場所になるとともに、働く場所にもなる。働く場所になることで、高校を出たらこの町から出るということがないような交流の場にできたらいいなと思っております。以上です。

#### 山田勝委員長

それでは、参考人の意見をお聞きいたしましたので、それぞれ質疑を行いますのでよろしくお願いたします。質疑のある方はどうぞお尋ねください。

## 濱崎國治委員

貴重な御意見を伺いまして、私は遠矢さんのちょっと下にある所におりますので、番地で言えば赤瀬川364-2というところで、たぶん[遠矢参考人「うちは157-2です」と発言あり]そういうことで、私自身毎日阿久根高校を旧阿久根高校を見て生活しています。遠矢さんもそういうことから非常に跡地については、思いやりがあるのではないかなということでお聞きしました。

そこでなんですが、先にAFCパルティータと言うんですかね、少年サッカークラブ関係の方が実は要望をされましてですね、あそこの今グラウンドの所をサッカーの専用場にして、簡易宿泊、キャンプ合宿ができるようなそういう校舎をですね、そういうふうにしていただきたいというですね、合宿施設、そして各教室をリフォームして宿泊可能にするというですね、そういう実は提案をされました。そこと先ほど遠矢さんの若干重複してですね、なるほどそういう考えもあるなど改めて認識したところです。それからもう一つ、いわゆるバレーボールとかほかのスポーツに特化した体育館をつくる。あるいはそこに合宿所みたいな簡易宿泊所をとというような話もありまして、それについてはですね、隣の薩摩川内市のほうで全日本のバレーボールチームの合宿してですね、するということで、これは川内市役所の職員もですね非常に1人派遣をしてでもですね、そういうふうにして、毎年実は全日本の合宿があったりします。そういうことで非常に興味深かったんですが、要するにこの阿久根の地でですね、どうもちょっと引かかるのは、私どもの、私の考えとしては、やはりあの施設が稼働率が高い施設でないと雇用にしても、ちょっとその辺がどうかなという思いがしてですね、前のサッカーのその人の話ではですね、期間的に限定があるんですね。合宿にしても、あるいはスポーツの交流をしたり、あるいは試合があっても土曜日曜とか連休とかですね、そういうところに特定されるような感じでですね、どうもその辺で稼働率のほうでどうかなというのを考えたんですが、ただ、遠矢さんの話では岩手のほうではこういうことで、こうしっかりと、稼働率も多くて、物産を販売したようなですね、そういうのがあるということをお聞きしてですね、それがどうなのかなあというのがちょっと引がかかったんですが、その辺を参考人はどうなんでしょうか。

## 遠矢参考人

稼働率は、かなり力を入れないと上がってこないと思いますが、紫波町のお話をさせていただいたのは、とにかく本当の意味でサッカーに特化することができれば、社会人もいるし、児童、生徒もいるわけなんですけど、対象者は全国に広がるんですね、そしてその人たちがあそこに行かなければというようなものまで作りきれば、ちゃんと宿泊施設も稼働していくと思います。さらに、その宿泊所自体があそこに泊ってみたいと思う、たとえば食の提供とかをすることができれば、いいんじゃないかと思っています。本当紫波町の話ばかりでなんなんですけど、紫波町が持っているこの施設、宿泊施設を持っているんですけど、その朝食は、地元産品をビュッフェ形式で出しているホテルなんですけど、インターネット上の朝食のおいしいホテルというので、日本で1位になっています。だから、ホテルとしても、実は尖がって、目立っているんですね、だからそういうものをつくりきれぬかどうかとなった時に、僕はポイントになってくるのは、誰がやるかわかりませんが、ちょっと風変わりな人というか、俺はこれをやるんだという人が出てくれば、それが可能じゃないかと思っています。紫波町の場合も1人そういう方がおられます。紫波町の出身で、官僚をしてたんだけど、自分の家が建設業なので帰ってきました。その人が町とかを説き伏せて、民間でこの運営会社を立ち上げて、その人がお金も調達してきて、やっている。だから、そんな人がいるかどうか、結局はそうなると思います。これを公営でやろうとすると、たぶんだめだと思います。公務員さんにちょっと申し訳ないですけど、だまってても給料もらえるような考え方の人がやれば、やったとすると絶対に成り立たない。私たちも宿泊施設を今持っています

けど、個人としても、家族には言っていないですけど、かなりお金突っ込んでますし、そこをどうにかしようというのは自分が生きていくためにも絶対必要だ、この思いがあるかどうか、そんな人がこの町にいるのかどうか、もしくは出身者でもいいと思うんですけど、元Jリーガーみたいな人で、この町でやっていくんだという人が最初は私財を投じてぐらいの感じになれば、僕は成功すると思います。人は絶対来ます。AZを見ればわかることで、あんだけ人は集まってくる、尖るといふか、あそこいいよねとなったら絶対に人は来るので、最近もちらっと聞きましたけど、阿久根の夜の飲食店なども実は賑っていると、水俣とか、高尾野とか、川内とか、そんなところから人は来ているんだと、なんかそういうのを聞くとどれだけ尖れるか、尖る時には責任を持ってやる人がいるかどうか、もうこれに尽きると思っています。実は北九州家守舎というのも、補助金一切もらわずに、僕たちが積み立てた金、あと金融機関から借りた金これだけでやってますので、絶対の自信を持って俺たちこれをやるんだということで、突き進んでいますので、きっと周りからはいろいろ言われる人がやることにはなるとは思いますけど、そんな人がいたら僕も一緒に会社をつくりたいなと思いますね。

#### 濱崎國治委員

今、お伺いしましたら、やはりたとえばグラウンドについても、たとえばグラウンドゴルフできるとか、あるいは野球もできるんですよ、何もできるんですよじゃだめで、とにかくサッカーならサッカーに特化した、やはりサッカー専用というのをつくってということに、それを特化すべきだという、いわゆる特徴を出すべきだという、そういう考えですね。

#### 遠矢参考人

はい。

#### 濱崎國治委員

それから、いわゆる合宿所の件なんですが、阿久根市は現在グランビューを解体して新しくホテルをつくってくださる方を今後募集されるんでしょうけれども、合宿所のレベルということで、今、高校跡地の校舎がありますけれども、あれを改修してするようなそういう、ちょっとレベル、そういう改修してするような宿泊所でいいのか、あるいはもうちょっと、レベルをずっと上げないかんですよ、いわゆるホテル級にしないといけないのかですね、その辺はどうお考えですか。

#### 遠矢参考人

絶対にお金はかけるべきではないと思います。これから先に、維持がかかるようなものをつくってしまうというのは、人が減っていく中で、絶対にまかないきれなくなると思っていますので、どれだけ簡素な工事で、宿泊できる最低限の許可が取れるような、改修ができるかだと思います。私たちが、これまでやってきたリノベーションと呼ばれるものは、自分たちでできることは自分たちでやります。だから坪7万とかでオフィスとかはつくったりします。水回りのようなプロがやらないといけない電気工事とか、そんなことはやってもらいますが、建具もつくってはもらいますが、壁を塗るとか、床を剥いで、床の加工するとかそんなところは自分たちでやる。それをしないことには、たとえば100万かけたものの、何年かけて回収するかという時に、金かければかけるほどその後の維持費がかかってしまって、それで経営ができなくなると思っていますので、グランビューさんとかは新しくつくるのであれば高級路線でいいんじゃないかなと僕は思いますけど、立地もいいですし、阿久根高校の跡地をどうするかという時は、とにかく金をかけずに、いろんな人たちが協力してくれるような仕組みをつくるということですね、私なんかやる時は、いつもワークショップと呼んでますけど、今度こういうことやるんだよ、壁を壊すからみんなで一緒に壊そうぜとか、塗るから一緒に塗りましょうとか、材料用意してます。終わったらみんなでバーベキューしましょうみたいな感じで、人夫代もなるべく払わないようにしてました。そのぐらいの想いで、誰かがやってしまえば、

稼働率そんなに高くなくてもペイできるという施設になってくると思います。

#### 濱崎國治委員

先ほどの説明でも、とにかく民間がして、民間の運営によるということでお話をされましたけれども、現在のあそこの所有は県ですね、今までの、少なくとも私の考えでは、やっぱりサッカー場を整備するとすればやっぱり公ですね、公のたとえば自治体がして、今の校舎にしても基本的な改修はですね自治体をお願いをして、あとの運営については民間がした方がいいんじゃないかという考えを持っていたんですが、遠矢さんの説明ではとにかくあとの運営等を考えればやっぱり民営で、民設で民営といいますかですね、そのほうが絶対いいというお話なんですが、公設で民間がつくるということはどういうふうにお考えですか。

#### 遠矢参考人

公設民営ということですか。[濱崎國治委員「そうです、そういうことです」と発言あり]公設民営いいと思うんですけど、指定管理のような仕組みになってしまうと、もう完全に縛られてしまって、何もできなくなるんじゃないかと思います。私も財団法人で働いていた時は指定管理方式だったんですけど、新規事業なんて全くできないんですよ。その辺の条項というか、新しい形の指定管理方式をとれるのであればいいと思います。収益事業を積極的に行っても良いとかですね、改修をしても良いとか、それがないことにはどんな事業も少しずつの修正は入っていきますので、それが許されないとなると、もう補助金で年間の運営予算5千万円ですよとあって、その5千万をどう振り分けるのかということ、そればかり考えてしまって、立ち行かなくなるんじゃないかと感じます。なので、公民がうまく連携していく、それから私は公に求めることは規制の緩和なので、あとは許認可のスピードを速くするとか、そういうふうにやってもらうことで民間はどんどん、ちゃんとマーケットに応じたビジネスの展開ができていくんで、そういうことをやっていただければなと感じます。

#### 濱崎國治委員

先ほどちょっと言葉の端にあったんですが、遠矢さんがもしそういう機会があったら自分でやってみたいな、あるいはやってもいいなというお考えはありますか。

#### 遠矢参考人

あります。ここ何年か自分でそういうリノベーションのような仕事をしてきてみて思ったのが、自分事として、やるっていうのがいかに大切かというのを感じています。阿久根に対して僕自身がなかなか恩返しできていないというのがあって、あの阿久根高校をどうにかしようと言った時に、私ができるとすると、一緒になって経営やりましょうという所まで言えるんです。けれども、尖がるための、サッカーで尖ると言ったら、本当にサッカーやってた人とか、すごく影響がある人とか、そういう人が、よし俺もやると言ってくれると一緒にやりやすいんですね。今の僕一人ではできないと思っています。それと、やはりこの町で暮らしてきたというか、この町にもう絶対骨をうずめるんだという人と、どうなんでしょう、今のパターンで言うとサッカーやってた人、この町に骨をうずめるぞという人と僕が組むと一番いいのかなと思います。

#### 濱崎國治委員

サッカーの関係者からもあそこをサッカーの専用にして、合宿ができて、試合の時も交流ができるという、いわゆる提案もありました。それから、福祉関係の団体からはですね、あそこでやっぱり福祉施設として、たとえばあそこに介護職員を養成して、そしてあそこでいわゆる福祉施設をつくってという話、あるいは外国人から、外国人を連れてきてあそこで寄宿舎、それから介護職員を養成してそういう人手不足を補ってする。それから、あそこで、LEDを使った植物の野菜の栽培をして、その障がい者をですね、あそこで雇用して、そうすればうまくいくんじゃないかという話もありました。それについて、どういうお考えでしょうか。

## 遠矢参考人

サッカーについては私も提案したので、まあ面白いなと思います。あと、たとえば介護職の人を育成するような施設ができてくるというのは、これはまあ時代のニーズに合っていると思うので、それを本気で運営する人がいればすごくいいんじゃないかなと思います。北九州の事例で言うと、マッサージ師を養成する学校があるんですけど、その学校は、もともとはマッサージ屋さんなんです。それが少し大きくなっていて、学校をつくって、授業料をもらって育てて、自分の会社で働かせるという仕組みをつくっている人がいるんですけど、だから介護の場合も、介護施設やっている人がそういう学校をつくって、施設もつくりながら、その職員を育てていくというような、そのくらい回せるような人であれば面白いかもしれないですね。LEDに関してはよくわからないですね。

[濱崎國治委員「ありがとうございます」と発言あり]

## 山田勝委員長

いいですか。ほかに。

## 竹原恵美委員

先ほどからお伺いしていると、現在はなかなか地域の人にターゲットを絞っても集客できない、回していけないことは分かっていますが、公共の施設なり、既存の施設なり、土地を地域の人をターゲットにしない、メインのターゲット、サービスを提供する相手にしないということの民意をやっぱり超えなきゃいけない、クリアしなきゃいけないそれはさっきの新潟でしたっけ、岩手だ、岩手のほうも超えてこられた、スタートは民間でされたけれども、随分広い土地なので、公共の土地も、そしてその公共でサービスすべき施設も入れてきたんだと思うんですが、どう乗り越えられるんでしょうか、ここを。

## 遠矢参考人

えっとですね、そこがさっき言った、風変わりな人って言ったのは、そのことでして、新しいことをやると、必ず反対されます。既存勢力と言ったらあれなんですけど、今までのやり方を変えらるということ自体が必ずこのフリットをおこしてしまうので、それを乗り切る。俺はこれやるんだという思いがないとやっぱり乗り切れないんですよ、これ調整していきましようと言ったら一生調整なんてできないです。私が今やっているリノベーションというの、全国から注目されているのに、地域のオーナーさんたちからは反対されたりします。それは、私たちは安く借りて、いろんな人が使えるように整備をするから、ほかのオーナーから見たら賃料安くなるじゃないかって言って、怒られるんですよ。怒られるけど、どう考えても、これから人口減っていくし、あなただけが設けるという時代じゃないんじゃないですか、これ面と向かって言ってます。だから怒られますいつも。自分たちのことばかり考えてるんじゃないのって言われるんですけど、いや僕らはもうそれをもう一つ越えてると思います。次の時代、阿久根とかもう今22,000切ったくらいですかね。どう考えても減っていくわけですよ。じゃあ、減ったなりの生き方をしないといけないわけで、その時に、いろんな人が集まる施設、全国からも集まって来るし、自分たちの物産も売れますよぐらいの勢いでやれば、超えて行くというか、AZの牧尾さんじゃないですけど、何かやっぱり特徴的なもの、お客様をちゃんと見て、やるということしかなくて、調整は僕はあり得ないと思ってます。

## 竹原恵美委員

ということは、公共というのはある程度今の生活も充実していきます。いろんな夢を与えていくことも一面ありますが、言葉は、はっきりと言えれば危機感をあおるではないけど、危機感を与えるというか、現実を見ていただく、厳しいことも言うということがすごく大事になってくる。その上で提供できる、確実性はでもないところの話で、協力者になっていただくということが必要ですか。

## 遠矢参考人

ですね。ですから公設でないと言ったのは、まさにそういうところです。ただ、市、たとえば市、県がこの人に任せますという手続きはしっかりと踏んでいかないといけないと思います。その手続きを踏んだ上で、税金投入しなくてもいいような仕組みで、この人にかけてみようというようなところ、もうそれじゃないと突破できないと思いますけどね。

#### 牟田学委員

先ほどのLEDの話なんですけども、それは、もやし工場をつくろうかという話だったです。その方も投資をするべきじゃないと、その校舎に関してもですね、今参考人も言われますように、尖がりを持たないといかんと、でも、投資はするべきじゃないと。今のグラウンドも公認のグラウンドをつくるとすれば、ちょっと狭いんですよ。それは何とか広げてなると思います。ただ、その宿泊施設ですけれども、民間で、自分たちでやると。でも、それに関して地元の食材をつかって、サッカーはサッカーでグラウンドで、今言われたように私とそのサッカーの元Jリーガーみたいな感じの人ってそれで集められると思いますけど、今度その校舎をですね、合宿、ホテル並みにするとしてですよ、そのどうなのかなと、あの校舎を使って、ああここで泊りに来たいというようなものができるんでしょうか。

#### 遠矢参考人

私はホテルをやったことがないので[牟田学委員「いや宿泊施設ですよ」と発言あり]あ、宿泊施設は、そんなにお金をかけずにつくれますので、お金かけずにつくれたということは、賃料もほとんどかからないような施設で、何に金かかるかといってもシーツの交換と人件費だけなんです。ということは、運営は必ずできる。そこまでは見えます。[牟田学委員「稼働率が少なくても」と発言あり]はい。施設を持つことで収益が上がるという状態をあまりお金をかけずにつくれるというのが見えてるとというのが僕はビジネスチャンスだと思いますんで、区切られてますし、あとは2段ベッドを置いていけばいいだけなんですよね。変な話ですけど。

#### 仮屋園一徳委員

あの繰り返しになるんですけど、補助金に頼らないという分です、農業でも、土地改良事業なんかの場合で、補助金に頼っては独り立ちできないんだという話を聞いたことがあるんですよ。全く同じようなことを言われましたので、その甘え以外にまだあるとしたらどんな要素がありますか。補助金に頼らないでやらないと成功しないんだよという中には。ただ、甘えが出てくるというその部分だけですかね。

#### 遠矢参考人

そういう事例しか見ていないから、そうとしか言えないですね。補助金切れたらやれないですっていうのばかりですよ。だからその、いや補助金使って本当に成功した事例があるんだったら教えてくれよって思います。

#### 白石純一委員

もちろん民間で全てやり切れればそれがベストなんですけど、たとえ、ま、あそこ今10年近く使っていないもんですから、まず水道、ガス、電気、そういったことのインフラですね、これはある程度公共のほうでやってもらうことが最低必要なのかなと思うんですけども、もう一つグラウンドについても、人工芝を貼るのはそれこそボランティアを呼んで来てできるのかもしれないけれども、やはりある程度の整地、これまでは、やはりその土地を持っていらっしゃる県、またはそこから譲り受ける市がやはりインフラという意味では公に整備してもらわなければならないのかなと思うんですけど、その辺はいかがでしょうか。

#### 遠矢参考人

イニシャルコストに関して、公が負担するというのは、ないことはないと思いますが、おそらくその事業者を選定するにあたって公募をすることかという時に、整備ありきと

いか、でやりますという人と、そこも含めて俺たちやりますというところでは、私は全然違うと思っておりますので、財政状態が良くなって、実際の整備ができませんでしたといったら、じゃあ僕たちがやりませんよっていうくらいだったら、その人たちは本気だったのと僕はちょっと感じます。公募の仕方かもしれないですね。

#### 山田勝委員長

ちょっと休憩をしてですね、私が話をしているですか。  
休憩します。

(休憩 13:48~13:52)

#### 山田勝委員長

委員会に移行いたします。

#### 渡辺久治委員

遠矢参考人のお話を聞いててですね、すごくやる気を感じて、でもまずこの人の問題だと、やる気のある人がせないかんと、で尖がらないといかんと、そういう人がおらないかんと話でしたよ。そんな人って本当にいるのかなと私は今私は思ったんですよ。そして、今度は濱崎委員の話で、本人にふられて、それで聞こうと思ったんだけど、本人がやる気があるということで、そうであればもうというやる気を感じるんですが、その中で、北九州家守舎とか、その参考人がどんなふうに関わっていくかというのはある程度もうシナリオがあると思うんですけども、そのへんをちょっと。ちょっと聞かせてもらえればありがたいなと思います。スケジュールというか。

#### 遠矢参考人

実は私は北九州家守舎があと2年はみっちりやらないといけない状況にあります。そのくらい立ち上げた事業が多すぎるので、すぐにはできないんです。ただ、なんでしよう、資金調達方法を一緒に考えると、どうやって外向けにプロモーションをかけていくとか、そういうところでのアドバイスができると思っています。だからさっき3人っていったのは、1人は専門性を持った、サッカーかなんかわかんないです。そういう人と、やる気のあるやつと言ったのは、このフルタイムでこの事業にかけるやつが見つけれたらこいつと一緒に組んでやりたいとそんなイメージです。最初の2年くらいは私も週に1回来るとかそれくらいしかできないですね。

#### 渡辺久治委員

その1人というのは遠矢さんではないわけですね。

#### 遠矢参考人

そうです。誰か僕は絶対いると思います。

#### 渡辺久治委員

遠矢さんが関わるのは、あと2年後は関われるわけですか、目いっぱい。

〔「そげんいっぱい請求したって」と発言する者あり〕

#### 遠矢参考人

いやでも僕は阿久根に帰ってきたいので、そういう意味では、2年くらい、2年後にこれをやらなければいけないということになれば今度は逆算して今の事業を譲渡していくということ是可以するわけですので。

〔渡辺久治委員「ありがとうございます」と発言あり〕

#### 濱崎國治委員

先ほど、いわゆるサッカー場の整備ということで、パルティエダですか、そこが要望書を上げていらっしゃるんですが、その中でですね、要望内容として、跡地のグラウンドの整備、芝がベスト及びサッカーコートのポイント設置とかですね、あるいは照明設備の建設、それから将来合宿施設として各教室をリフォームして、宿泊可能にする。こ

れについては、自分たちでなくて、やはり、いわゆる阿久根市なら阿久根市に、あるいは県なら県にぜひその整備をしていただければ、あとについてはそういうことで、いわゆる利用して、活性化につなぐことができるんだという発想なんです。そこで、どうも1つ引っかかるのは、たとえばサッカーコートをつくって、サッカーに特化した施設整備をすることで、先ほども資金調達の面がどうなるかというのもおっしゃいましたけれども、白石委員のほうからも少なくともハード面の最低限については、どこかにかお願いをして、そのあとは自由に運営面のほうで活性化の大きい稼働率を上げて、集客をしてということだと思っておりますが、どうも私はそこでやっぱり最低限のハード面についてはして、あとについてはそういう人たちでいかに盛り上げていくかの運営をしていたくのがベストじゃないかなあと思うんですが、やはり、それからもう1つは補助金という、補助金というのはあくまでも運営補助の考えじゃないかなと思ったものですから、運営補助は別として、[「運営補助はない」と発言あり]運営補助はなかと、最初の補助、ハード面では補助金なりですね、最低限ののについては、お願いせないかんのじゃないかなあという気がするんですが、でも、遠矢さんの話では、いやそうしたら、その事業に対する熱意と言いますか、自分たちでやるんだと、そういうのができなくなる可能性があるから、最初から全部自分達でした方がいいというそういう考えのようではありますけれども、かなりの私は資金、設備投資になると思うんですね。サッカー場もあれば一面で足りるのかですね、そういうことになったらですね、一面でやっていけるか。鹿児島市内ではまた、サッカー場の専用のサッカー場も出来てですね、宿泊施設もいっぱいあるんですけれども、そこで阿久根市が阿久根高校跡地をそういうところを特化してやっていけるというのをどうもまだ私もはたして出来るのかなあと不安視してるんですが、その辺をもう一度お聞かせいただきたいんですけれども。

#### 遠矢参考人

私も事業者を見つけてきてるわけではないので、パルティードさんは、これは完全にいけるんだと思います。今やられてることの精度が高まっていくってことだから、それはそれでハードの整備してあげるといいと思うんですけど、でもたぶんそれだけでは多くの人が集まるものにはなっていないと思ってまして、すごく流してしゃべりましたけど、産品を売るんだとか、そこに働く人たちがこの町の人なんだというのが結構力いる作業だと思うんです。道の駅をつくってもだめだと思っているので、道の駅のような運営ではですね。本当に多くの人これがいいと思えるものを、ちゃんと目利きが出来ると、その調達が出来ると、そして販売することが出来るという、A Zのミニ版じゃないですけど、そんなことまで含めたものに僕はしていきたいなと思っているので、ちょっとこの質問の内容と違うかもしれないですけど。だから、もしかして段階的に整備してあげて、パルティードさんのためにやるっていうのはありなのかもしれないなと思います。すごく有名になってくると思います。もしかしたら小学生留学じゃないですけど、転校してまで、サッカーを教えてもらいたいから阿久根小学校に入ろうと、ほんとにそうなると思いますので。それだったら、ほかのまちの過疎化を推進させてしまうことにはならないと思うんですけど。そんな奪い合いなんかしてたって僕はあんまり解決にはならないと思ってるんですけど。まあこのまちのためにはいいのかもしれないなあと、ごめんなさいうまく答えられなくて。

#### 白石純一委員

遠矢さんがおっしゃたように、確かに1からやはり事業化というのは本来ですね、やるべきだというのは思ってるんですけど。10年間使われていなかったのだから、まず水道がきていない、ガスもない、電気もきてない。だからまず、やはり今やられている北九州の事業でも、おそらく、電気水道はそこまでは来ていたはずでしょうから、最低限そういうインフラをですね、やはり、市なり県なりで、最低限まかなってもらうべきじゃないかなあという趣旨で申し上げます。

### 遠矢参考人

それは確かにそうですね、我々がやってきたことも、はつって、管引いてくれってそんなことまではやっぱりまだやってないんです。

### 竹原恵美委員

ここに特化したことではないんですけれども、地域を活性化しようとか、永續していかうと思うと、企業家がどうしてもいるだろうと思うんですが、インキュベーターとして経験をお持ちなのは、のところからリーダーとして、リーダーを見つける育てるということは地域にとってどういうふうにしていけばいいのか。なにかその辺の人づくりを教えていただけませんか。

### 遠矢参考人

失敗してもあたたかく見守ってくれる人が多いまちだなというのがあればいいと思います。育てるなんてことは出来ないと思います今までの経験でいくと。ただみんな何かをやりたいという思いはあると思うんです。だから高校出たら阿久根にいなくなると思うんです。でも阿久根に残った方がいろんなことにチャレンジ出来るんだと、チャレンジして1回失敗しても、うちのじーさんたちは、いいやないんっていう人が多いんだよねこのまちみたいな、なってくるといいと思いますよね。これは難しいけど、時間かけると、そういう町になるんじゃないかと思うんですね。で、一人の天才がその中から現れると思うんです。なんかうそみたいな話ですけど、シリコンバレーだってそうじゃないですか。ヒューレッドパッカーさんが作りましたと、そしたらこいつら面白いよねっていつて周りに増えていくということですから。引っ張ってくるっていうよりも、残りたいと思わせてやっていく。だから、それはもしかしてサッカーとかスポーツの方がこういう町はいいのかもしれないですね。

### 濱崎國治委員

先ほど言ったんですが、たとえば、サッカーをするにしても一面でもやっぱりそういう特化した施設にすれば集客というのは出来る可能性があるんですか。

### 遠矢参考人

わたしは出来ると思います。ほんとに特化しているということは、1チームしか出来ない。これがステータスになると思います。だからパルティードさんが使う日もある、けれどもわかんないです、Jリーグの合宿が実は行われている、この1チームだけは受け入れられる。それで十分だと思います。

### 竹原恵美委員

人としての方向なんですけれども、では、天才なり、リーダーとしての向いている方がいらっしゃること。または、複数で組み合わせることで、それを補完できるグループが出来ることを待つのが必要であって、決してリミットをつけて、なにか施設なり、土地なりでリミットをつけてこちらが公共が、市なりがリードして、なにかごいごい何年までに何かを作るというやり方では結果が導けないということにもなりまじょうか。

### 遠矢参考人

私はそれは難しいと思います。どちらかという、たとえばその何ですかね、最近のヘリコプターみたいなあれ何ていうんですかね。ドローン、ドローン特区みたいなものをつくって、ここでは飛ばし放題です。という規制緩和をするとか、そんなのをするとそれを開発してる人が来るわけですよ。何かこれからの世の中で必要とされるもの、それを阻んでいる規制を見つけて、阿久根市だけはそれをしなくていいということになったら、必ず世界から注目されるはず。なんかそういうものを見つけることじゃないかなと思います。私がいたインキュベーション施設も箱作ったんです。箱作って、そういう人たち来ませんかといってやってるんですけど、10年もすると枯渇するんですよ。しかも安い賃料にしているので、どうやって出ないようにするかっていう、あの手この手になってくるんですよ。別法人つくって、実は実態はおんなじみたいなものを、見て見

ぬふりしながら、要件満たしてるから、じゃあ入ってていいですよと。結局そうなるんで、だから北九州もあんまりベンチャーって出てないです、実は。ベンチャー出たんですけども、それに対しても規制かけていって、隣の町に逃げられるんです。僕がそんなの悔しくて家守舎やっています。

#### 白石純一委員

ですから、民間でほんとにやる気のあるところにやっぱり主動してもらおう。ただし、そのインフラなりの最低限のところはやはり公の応援をもらって、かつ、何か民間がやろうと、そこでやろうとしたときに、それをいろいろ規制で縛るのではなくて、それを応援するような市がお膳立てというか、規制緩和をして、一緒に阿久根のまちを盛り上げていこうというのが、その公と民間のさっきも出てましたけど、公民連携というような理解でよろしいのでしょうか。

「遠矢参考人「はい」と発言あり」

わかりました。

#### 山田勝委員長

ちょっと暫時休憩いたします。

(休憩 14:07~14:11)

#### 山田勝委員長

それでは休憩前に引き続き会議を開きます。

#### 仮屋園一徳委員

2つだけ教えてください。遠矢さんは、もう阿久根高校跡地については、十分現状を把握されてると思いますので、校舎、体育館、武道館、水泳の跡地ですかね、いろんなのがあるんですが、再生されるとしたら、そういったものを出来るだけ活用していく方向で考えられるのか、それとも全体の計画の中で、もう最初からこれはだめよ、とか考えなのか、1つずつすみません。

#### 遠矢参考人

今あるものを最大限活用したいなあと思います。なんですかね、家庭科室のようなのがあってあれば、キッチンを貸し出すとか、そんなようなサービスも出来たらいいなあと思いますし、工作室のようなものがあるんであれば、そこでは工作教室が開けるような人に来てもらってやらせる。そういう運営が出来るような事業者がいいと思います。全部を宿泊にするわけじゃなくて、いろんな人がそこは使っているんだ、おれたちの財産だよ、みたいなふうに思いながらやっていくのが一番じゃないかな。

#### 仮屋園一徳委員

もう一つはですね、再生していく場合に、もちろん全体的な計画というものはつくる必要があると思うんですけど、その期間ということについてはですね、あそこをもし再生するとしたら、ある程度の全体的な活用できるまでは、ある程度の期間が必要なのかどうか、その辺についてはどうなんですか。

#### 遠矢参考人

必然的に時間はかかると思います。私がおの200坪のホテルを作るのには、実は1年半くらいかかりました。一番苦労したのは資金調達ですけど、計画を発表してからオープンするまでというのはどうしてもそのくらいかかってしまう。資金調達があり、設計があり、その前にプランニングがあって、マーケティングしてみて、これでいきたい、お金がどうやら何とかかなるとなったら、今度はそこから人の採用が始まって、教育があって、オープンする前のプロモーションかけて、そしてオープンしましたってなるとやっぱり時間かかると思います。

#### 渡辺久治委員

先ほどこの地域の物産館的なことを言われたんだけど、どんなイメージかちょっと私  
はわからないんですけども、尖がらないかと、そこにサッカーをどんなふうに絡めるか  
というか、具体的に尖がり方の方法というか、そういうのをお聞きしたいです。

#### 遠矢参考人

魚料理を出すのに職人が必要だとかよく言ったりすると思うんですけど、それを下ご  
しらえ3枚に下ろした魚が売ってるとかですね、あ、売ってて、キッチンが付いてて、  
そこで自分で加工して持って帰るとかそこで食うとか、なんか本当の意味でこの町で採  
れるものがちゃんと提供できていないような気がするんですよ。その農業に関しても  
そうだと思います。物があって、自分たちで加工して食っていいよとかですね、そのぐ  
らいまでこうちょっとはじていくといいんじゃないかなあと思いますけどね。ほかが  
できない、たぶん規制があってできないんですよ、[「衛生法とか」と発言する者あり]  
そうなんです。だからそこをなんか考えればいいと思うんです。

#### 白石純一委員

たとえばその物産館で魚、肉、阿久根で採れた魚、肉、野菜を売ってて、じゃあその  
隣の広場でバーベキューをしていいですよと、たとえば、そういうイメージですかね。

#### 遠矢参考人

だから、そう、普通だったら食材を買って、どこかの公園、公園じゃだめなのか、今  
時は、公園ですら今バーベキューできないんですからね。なんかこう自由に使えるって  
言うんですかね。安全面とか衛生面を考えていろんな規制があると思うんですけど、そ  
こをなんか自己責任なんですよっていうようなものにできないか。そういう解釈ができ  
ないかなと。

#### 白石純一委員

今、公園で火は使えないんじゃないかとおっしゃったけど、僕もちょっと調べてみた  
らですね、公園は届出をすれば、市が許可すれば火は使えるというのをある公務員の方  
から聞いたことがあってですね、だからいちいちもちろん申請を出して、許可が下りる  
手続きがたぶん面倒だから自主的に火は、もちろん無許可では使えない。火気厳禁と書  
いてありますから、ただし、市なり、県なり、その管理者の許可があれば火を使ってい  
いと、許可も出せると僕は聞いたもんですから、そういったことを出しやすくすればそ  
ういう公園なり、でもそのバーベキューというのはできるんじゃないかと、私は理解し  
ているので、まあその辺はこれからいろいろ考えていかないかんとは思いますが。

#### 山田勝委員長

はい、ほかに。ほかにないですか。ほかになければですね、遠矢参考人からの意見聴  
取をこれでおわりますが、ありがとうございます。

ちょっとお待ちください。それでは、ここで、委員会を代表してお礼を申し上げます。  
本日はお忙しい中にも関わらず、本委員会に御出席いただきありがとうございます。  
本日お聞きしました意見は今後の審査に有効に活用させていただきますので、なにとぞ  
よろしくご指導ください。本日はありがとうございます。

暫時休憩いたします。

(休憩 14:19～14:27)

#### 山田勝委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。

これまで、4人の参考人から意見を聴取してきましたが、各委員からの提案も含めて  
御意見がありましたらお願いします。

#### 牟田学委員

きょう、遠矢参考人まで入れて4名の方の意見を聞いてきたところでありませけれど

も、私のほうから、1つ提案をしてみたいなあというのがありまして、ちょっと時間をいただきます。

実はきょうのスライドでもありましたように、シェアハウスというのがありましたけれども、私はあそこの校舎をですね、老人住宅にリフォームをして、やったらどうかというふうに。

**濱崎國治委員**

それは、またあとでいいんじゃないかと。というのはもう1人。

**山田勝委員長**

それならちょっと休憩をしてですね、休憩します。

(休憩 14:28～14:29)

**山田勝委員長**

委員会に移行いたします。

実は、10月13日の委員会で、参考人として来ていただく方を決定していただきましたけれども、濱崎委員を通じて蓮の実園の野元さんにアポを取っていただいているんですが、なかなか日程の都合がつかないということで、いまだに返事を聞いてないんですよね。ですからその後、濱崎委員どうですか。

**濱崎國治委員**

その後ですね、事務局のほうも1月5日ですか、商工会議所の新春の集いで、そのへんを日程的なものについて今後調整してお願いしますということを実は言っているんだそうです。ちょっと私はその日都合が悪くて行けなかったものですから、実際、理事長が来といやって、その辺の話はしてあるんだそうですので、できれば1月中にでもという話をですね、また改めてしていただこうかなと思っているんですけど。

**山田勝委員長**

まあ、なかなかですね、お忙しい方で、ただ私もですね、3月議会に中間報告をした方がいいがなあということも考えておりますもんですからね、だから、あくまでも中間ですので。非常に相手が忙しい方だったら、それはそれとして、またあとで聞くことにしてでもという気持ちもあるんですよね。でもこれは皆さん方がやはりそこまで聞いてからちゃんとせないかなよ、といえればそれでいいし。

**濱崎國治委員**

ただ、野元さんにしては、ぜひ自分の考えは聞いていただきたいというのは思っただけです。

**山田勝委員長**

そういうふうに思っただけですらですね、それはちゃんとしたいと思うし。あの、楠木さんの話では、阿久根高校跡地を見にも行ったという話です。だからそういうことがありますので、ぜひ出席をいただきたいんですが、なかなか連絡がうまくいかないもんですからね、気になってるところでした。そういうことでしたら、野元さんからの連絡があり次第、会議を開くということでない、しかたないですね。それと、今それぞれ皆さん方も考えていらっしゃると思いますので、皆さん方の考えはそのご意見は、野元さんの分が終わってからということでもいいですか、どうですか。

〔「その方がいいんじゃないですか」と発言する者あり〕

いいですか。

〔「はい」と発言する者あり〕

**牟田学委員**

いや、聞いてもらえれば、きょう聞いてもらってもいいと思うんですけど。

**山田勝委員長**

聞くだけではどうですか。

〔「それはそれでいいですよ」と発言する者あり〕

〔「よろしいですか」と発言する者あり〕

そういうことであればですね、委員の皆さん方もただ流すのがいいことじゃないなあとと思うもんですからね。

#### 牟田学委員

先ほど言いましたように、老人住宅ということでですね、なぜかといえばまあ、私の牟田地区にですね、今現在、独居老人が4名いらっしゃいます。それで、近くに身内がないという方も二人、一人は近くといってもちょっと離れてるんですけど、息子がご飯は作って持って行くということ。もう一人はですね、長男がもう60過ぎの長男が介護をしていらっしゃいますけれども、その長男さんは離職をしておられます。AZにおられたんですけども、親をみないかんといいところで、離職をして、今見ていらっしゃいます。そういったことですね、川畑の奥にもですね、夫婦世帯が2件、その横に一人世帯独居老人が一人おられますけれども。今はその旦那さんが軽トラで買い物とかしていらっしゃいますけれども、その旦那さんがもし車に乗れんようになつたりしたら、買い物とかいろんなのにですね、苦勞されると思っています。そこで私はですね、あの校舎をですね、リフォームをして、教室を間切りをしてそこに住んでもらうと。空調設備、衛生設備、特に水回りはですね、教室が1階から3階まであって、真ん中あたりにドンと穴を開けてパイプを入れれば、水回りもすぐできると思っています。そういったことで、あそこに安い賃料で住んでもらえれば。今皆さんデイサービスにも行かれますけれども、今のデイサービス、ずっと地域を回って連れにきますよね。それをあそこに集約して、住んでもらえれば、そういうデイサービスもあそこに行って連れて来られる。また、給食を頼んでおられるのもそこでできると、宅配ですね。それと何より一人で住んでいる方の寂しさ、それをみんなで共有して話もできる。買い物もAZのバスを使えばできる。そういった感じで、いろんなのにいいと思うんですよ。まず私が考えたのがリフォームが簡単だということ。ただエレベーターの関係は、先ほど視察に行きましたけれども、あの渡り廊下のあたりにボンと作ってですね、そうすれば、各階教室がずっとありますから、間切りをして、水回りはもうそういう感じで真ん中にパイプをドンとすれば両方から出来ますんで、リフォームの改修費用も少なくて済む。そういうふうにして部屋を1つの教室を3つくらいに分けてですね、住んでもらう。で、家賃が1万円とかそれぐらいであれば、都会からも呼べるということで、阿久根の創生にもつながるんじゃないかなあというふうな考えがありましてですね、そういう先ほどもあったように投資をしなくてすむ、そういう使い道があるんじゃないかなと。それで、グラントはグラントで先ほどの話のとおり、サッカー場を作ってやればいいと思うんですよ。牟田地区で4名一人の老人がいますけれども、ほかの地区も全部そういう方がいらっしゃると思います。そういう方たちをですね、安い部屋代と一緒に住んでもらって、すればどうかなあというふうな考えを持っております。皆さまの意見があればいろいろお聞かせくださいればいいと思いますけれども。

#### 山田勝委員長

あくまでも提案ですので、それぞれ皆さん。

#### 濱崎國治委員

じゃあ軽費老人ホームという感じですね。

#### 牟田学委員

だから、今老人ホームがありますけれども、あかり、いろいろありますけれども、12万、13万なんですよ。国民保険で入れる額じゃないんですよ、実際。それを、あそこを改修して1万円でも2万円でもそれくらいに住んでもらえれば今からの時代、いいのかなあと、まだまだ老人が増えてくるわけですから。私も両方みてますけれども、

こうやって、近くに子供たちがおればそれは問題ないと思いますけれども、近くにいない。

**濱崎國治委員**

設備投資をした分を部屋代でという考えなんですね。設備投資もやっぱりしないと人が住むには設備投資いらんじゃなくて、設備投資も私は、設備投資はかなりいると思いますよ。それから、管理人も置かないかなだろうし、そういうのがやっぱりすればかなりの。

**牟田学委員**

1階の僕はようは見てませんけれども、売店があるところであれば、そこを調理場にしてもいいなあと、ふうに考えております。今は、給食の配送とかそれでやってますけど。

**濱崎國治委員**

調理場ということは、自分たちで作るということじゃなくて。

**牟田学委員**

それは雇用をすればいいと思いますけどね。

**濱崎國治委員**

そうすれば、老人ホームになっとおな。

**山田勝委員長**

休憩いたします、語ってください。

(休憩 14:40～14:46)

**山田勝委員長**

委員会を開きます。なるべく早く野元さんの了解、日程調整をしてですね、次回の開催をしたいと思いますので、日程調整については委員長にお任せいただけますか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

それでは、御異議なしと認め、そのように決しました。

それでは、旧阿久根高校跡地活用検討に関する調査特別委員会を散会いたします。

(閉 会 14時46分)

旧阿久根高校跡地活用検討に関する  
調査特別委員会委員長

山 田 勝